

道路交通環境に関するアンケート結果

(実施期間 3/10～4/30)

【資料①】

生活道路における交通事故発生状況

回答数：1708 名（会員：983 名 一般：725 名）

○今回なぜこのようなアンケート調査をしたのか？

近年、各地域の生活道路における交通事故の割合が高くなっています。これらの交通事故を防ぐために、さまざまな交通安全対策が実施されていますが、取り組みが道路利用者に十分理解されていなければ、期待される効果を得ることは難しい状況です。そこで、こうした取り組みがどの程度理解されているかを把握するため、意識調査を実施する必要があると考えました。

アンケート結果を踏まえ、以下の資料をご用意しました。まず、【資料①】「交通事故発生状況」をご覧ください、現状を把握していただければと思います。その後、【資料②】「アンケート調査結果」の解説をご確認いただき、結果に対するご意見やご感想をお寄せいただけますと幸いです。「アンケートはこちら」より、ご回答のご協力をお願いいたします。

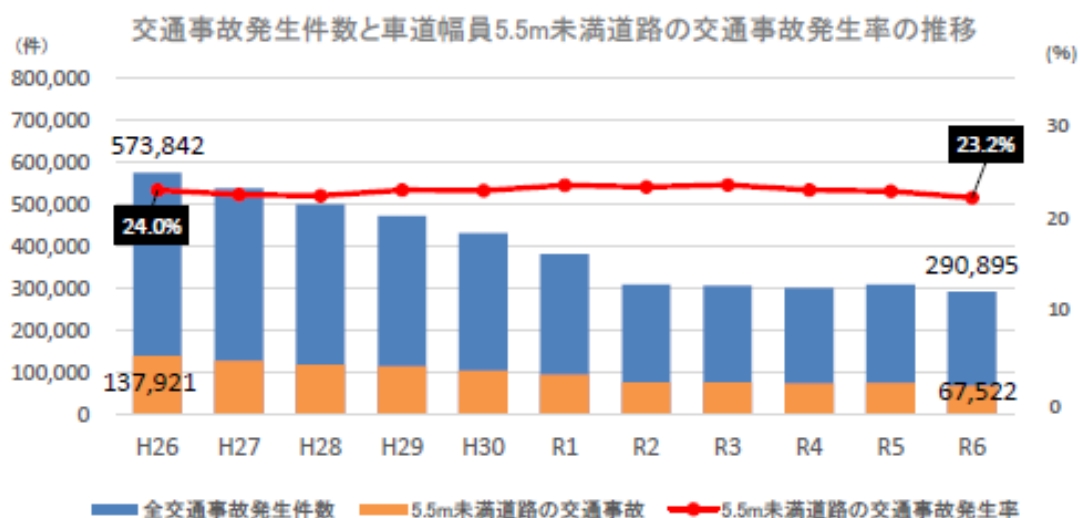
また、【資料③】では、アンケートの設問に取り上げた生活道路における交通安全施策や施設について解説しています。こちらもぜひ併せてご確認ください。

【資料①】

1.生活道路における交通事故発生状況

(1) 交通事故発生件数と車道幅員 5.5m 未満道路の交通事故発生率の推移。

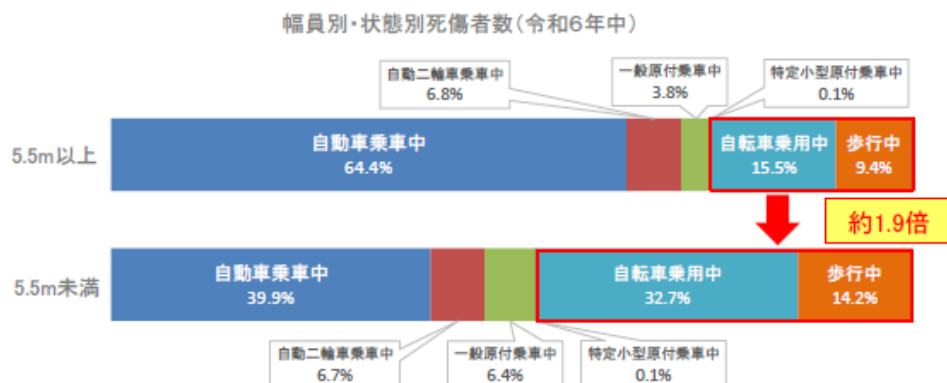
全国における交通事故（人身事故）発生件数は 10 年前と比較し、減少傾向にあります。全交通事故発生件数のうち車道幅員 5.5m 未満の道路における交通事故発生件数を占める割合（5.5m 未満道路の交通事故発生率）は、横ばいで推移しています。



出典：警察庁【生活道路におけるゾーン対策「ゾーン30」「ゾーン30プラス」の概要】

(2) 幅員別・状態別死傷者数（令和6年中）

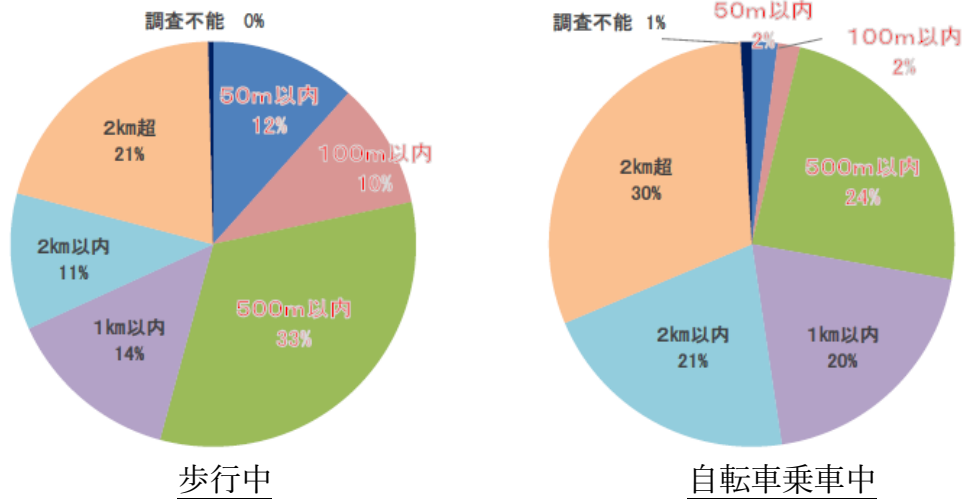
令和6年中における状態別の交通事故死傷者数をみると、車道幅員 5.5m 未満の道路における歩行中・自転車乗用中の死傷者が占める割合は、車道幅員 5.5m 以上の道路の約 1.9 倍でした。



出典：警察庁【生活道路におけるゾーン対策「ゾーン30」「ゾーン30プラス」の概要】

(3) 状態別・自宅からの距離別死者数（令和4年中）

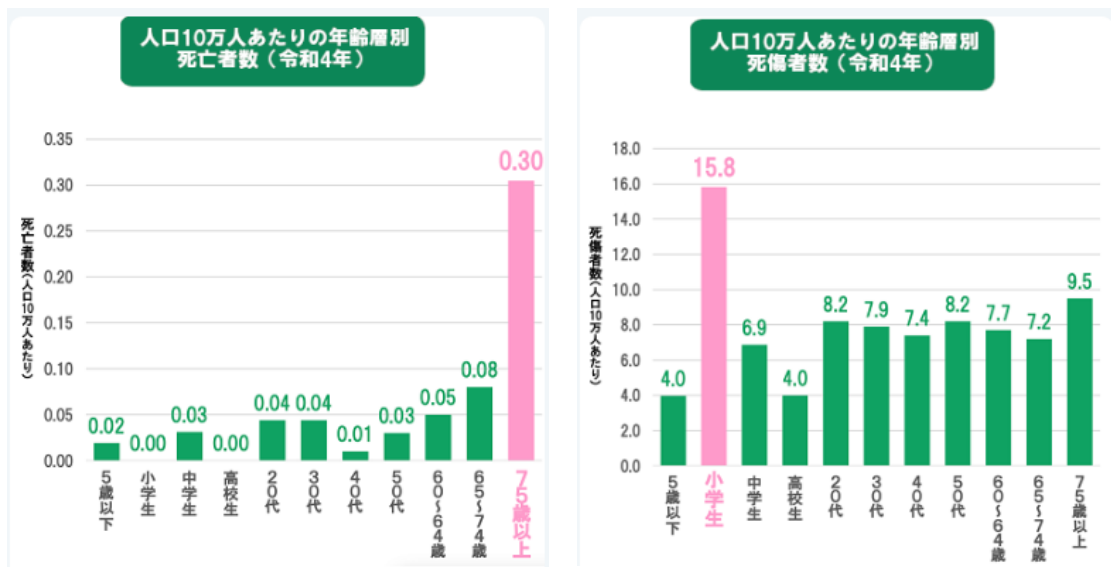
令和4年中において、歩行者・自転車乗車中の自宅からの距離別死者数の割合をみると、500m 以内で歩行中が 55%と最も多く、自転車乗車中では 28%と 2km 超の 30%に次いで多く発生しています。



出典：国土交通省【「ゾーン30プラス」実務者向けシリーズセミナー第1回基礎編の資料より】

(4) 生活道路の人口あたりの死傷者数・死亡者数

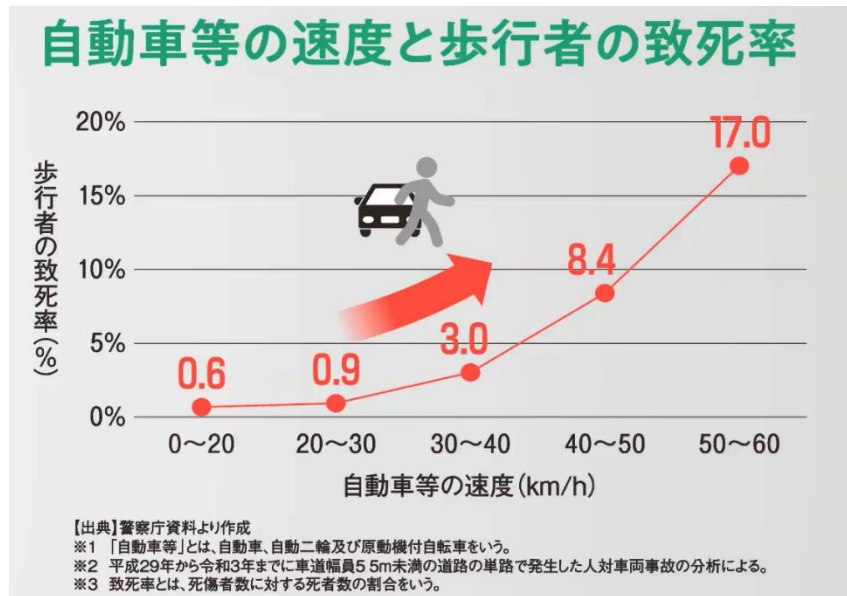
死傷者数では小学生、死亡者数では 75 歳以上が多い。



出典：国土交通省【交通事故の状況】交通事故データ（ITARDA：令和4年データ） 小学校、中学校、高校生の人口：文部科学統計要覧（令和4年版）※中等教育学校、高等専門学校は含まず 小学校、中学校、高校生以外の人口：人口推計（総務省統計局、令和4年10月1日現在）より作成

(5) 交通事故における致死率

歩行者の致死率は自動車等の速度が 30 k m/ h を超えると急激に上昇します



出典：国土交通省【生活道路の交通安全対策ポータル】